



京都 ⇨ 中米  
「和傘」

現在も数々の伝統産業が残る京都。古き良き伝統を生かした商品開発や経営ノウハウは、途上国の産業振興の参考にされている。JICA大阪による中米地域対象の研修では、京和傘の製造卸販売の老舗で和風照明も手がける株式会社日吉屋などを視察している。

広島 ⇨ アフリカ  
「西条の酒」

日本三大銘醸地である東広島市の西条。伏見、灘と並ぶ酒どころの西条酒は、全国に誇る地域ブランドだ。JICA中国の「アフリカ地域中小零細企業振興支援機関育成」コースでは、地域ブランドの確立を通じた地域振興を学ぶため西条の酒造メーカーを視察。



熊本 ⇨ アジア/アフリカ/中南米 など  
「温泉」

日本有数の温泉地として知られる黒川温泉。入湯手形や自然共生のための植樹活動など、黒川温泉観光旅館協同組合や地域コミュニティが主体となって独自のまちづくりを推進。大分県の一村一品運動や別府市のオンパクなどと同様に、アジアやアフリカ、中南米などの地域開発について学ぶ研修の舞台になっている。

沖縄 ⇨ 中米・カリブ地域/大洋州/熱帯・亜熱帯地域  
「エコツーリズム」

豊かな自然環境と独特の歴史文化を生かし、国内でも先立ってエコツーリズムを推進する沖縄県。気候風土が似ている中米・カリブ地域や大洋州、熱帯・亜熱帯地域を対象に観光開発をテーマにした研修を実施。世界各地で沖縄の経験やノウハウが生かされている。



長野 ⇨ ベトナム  
「干し柿」

江戸時代から干し柿の生産が盛んな飯田市。高付加価値の柿の生産・販売を担う地元企業の経験をベトナムに技術移転。JICA草の根技術協力事業を通じて、かぶちゃんファーム株式会社が、柿の栽培・加工技術・商品開発などに関する指導を行っている。



北海道 ⇨ ネパール  
「バイオブリケット」

もみ殻の炭化など、バイオマスの資源循環を推進している上川郡東川町。NPO法人北海道新エネルギー普及促進協会や民間企業と協働し、わらや草木、倒木を利用する代替燃料「バイオブリケット」の普及促進につながる技術をネパールに移転。



福島 ⇨ ウズベキスタン  
「フルーツ」

モモやリンゴなど「フルーツ王国」として知られる福島県。果樹栽培のポテンシャルが高いウズベキスタンに対して、福島県ウズベキスタン文化経済交流協会と伊達市が連携し、剪定技術・摘果・袋かけなどの果樹栽培技術をJICA草の根技術協力事業を通じて指導している。



# 日本の地場産業、海を渡る。

日本各地に息づく“地場産業”。  
地域の人々が代々受け継ぎ、培ってきた技と知は  
海を越えて、開発途上国にも伝えられている。

©PaPa.Graphics/orion/amanaimages



四国 ⇨ 中央アジア など  
「中小企業」

個性ある独立系の中小企業の多い四国地方。その分野では、日本一、世界一のシェアを誇る企業も多い。香川の手袋、徳島の家具、愛媛のタオル、高知の金属などさまざまな分野の経営者が、四国の中小企業の“元気の秘訣”を中央アジアなどに伝えている。



愛知 ⇨ アジア/アフリカ/中南米/中東  
「ものづくり」

日本随一の貿易港・名古屋港を要する中部地域では、自動車産業を中心にものづくりが盛ん。中部の製造業を支えてきた職人の技術やものづくりの精神を伝えるべく、JICA中部では「日本のものづくりと途上国の製造業の比較分析」コースなど、アジアやアフリカ、中南米、中東を対象に数多くの研修を実施。

茨城 ⇨ アフリカ など  
「陸稲」

日本国内で陸稲生産ナンバー1の茨城県。JICA筑波は敷地内に農業試験圃場を設置し、栽培技術、品種特性の調査方法などの研修を実施。近年、アフリカで積極的に導入され始めた陸稲の一種“ネリカ米”の生産性向上支援にも力を入れる。

